

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道58号 恩納バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自：沖縄県恩納村字瀬良垣 至：沖縄県恩納村字南恩納			延長	5.1km	
事業概要	<p>国道58号は、沖縄本島西側を南北に走る大動脈で、本島中南部の人口集中地域と北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ主要幹線道路である。恩納バイパスは、美しい海岸線が続き、リゾートホテル、ビーチなどが集中している本県有数のリゾート地であり、恩納村内の夏場の観光シーズンにおける交通渋滞の緩和、沖縄自動車道へのアクセス向上による沿道環境の改善、観光産業の支援に大きく寄与する道路である。</p>					
H元年度事業化	都市計画決定不要		H7年度用地着手	H9年度工事着手		
全体事業費	330億円		事業進捗率	73% 供用済延長 5.1km（暫定）		
計画交通量	25,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 6.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 91/414億円 事業費：65/379億円 維持管理費：26/35億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 623/1302億円 走行時間短縮便益：586/1233億円 走行経費減少便益：31/61億円 交通事故減少便益：6.7/8.5億円	基準年 平成23年		
感度分析の結果	<p>(事業全体) 交通量：B/C=2.5~3.5（交通量 ±10%） 事業費：B/C=3.1~3.2（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=3.0~3.3（事業期間 ±20%）</p> <p>(残事業) 交通量：B/C=6.2~7.6（交通量 ±10%） 事業費：B/C=6.4~7.4（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=6.5~7.2（事業期間 ±20%）</p>					
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 現道（瀬良垣～南恩納間）の渋滞の削減 恩納北交差点における渋滞長 渋滞解消（整備前600m→暫定2車線供用時0m） <p>②個性ある地域の形成（観光産業の支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖縄県へ来訪する入域観光客数（年間約600万人）、恩納村内への宿泊者数（年間約200万人） 恩納村内のリゾートホテルや各種観光施設間の所要時間が短縮（琉球村～国営沖縄記念公園の所要時間が短縮（約19分短縮：整備前118分→完成4車線供用時99分） <p>③安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 現道の死傷事故件数の削減（約6割削減） （整備前：52件→暫定2車線供用時：20件） 三次医療施設までのアクセス時間が短縮（恩納村（安富祖）から県立中部病院（三次医療施設）の所要時間が短縮（約7分短縮：整備前39分→完成4車線供用時32分） 地球環境の保全（CO2排出量の削減：H42完成供用時：11.1千t-CO2/年） 地球環境の保全（NO2排出量の削減：H42完成供用時：74.4t-NO2/年） 地球環境の保全（SPM排出量の削減：H42完成供用時：7.1t-SPM/年） 					
関係する地方公共団体等の意見	<p>恩納バイパスは、本県有数のリゾート地である当地区の観光シーズンにおける交通混雑の緩和及び沖縄自動車道へのアクセス向上により沿道環境の改善、観光産業の支援を図ることを目的とした延長5.1kmの道路である。</p> <p>本事業は、平成23年4月に全線暫定2車線供用された。事業効果としては、現道交通量が約2～6割程度減少、混雑度は1以下で渋滞がほぼ解消されている。また、現道交通量のバイパスへの転換により事故件数が約6割減少している。さらに、琉球村から国営沖縄記念公園間の旅行時間は、19分短縮されている。</p> <p>暫定供用後のバイパスの交通状況は、通過交通が現道からバイパスへ転換したことにより、平日、休日ともに交通量が暫定2車線の容量を超過し、混雑度が1.1となり既に現状で交通混雑が発生している。</p> <p>本事業の進捗状況は、4車線分の用地をほぼ取得しており、完成供用に対して事業進捗率は7割を超えている。また、残事業に対する費用便益費は、6.9と投資効果が高いことが明らかである。</p> <p>これらのことから、今後の周辺の交通状況等を踏まえ、4車線化に向けた検討を引き続き進めていくことが必要と考える。</p> <p>したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。</p>					

事業評価監視委員会の意見

対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・年々交通量が増加し、特にレンタカー交通の増加が顕著な夏季観光シーズンをはじめとして、近年、激しい渋滞が発生している。⇒交通渋滞の緩和
- ・恩納村における延長あたりの死者数は全国ワースト2位であり、かつ、沿道に人口が集中している中、大型車の利用交通が多く、交通安全上の課題がますます深刻になっている。⇒交通安全の確保
- ・年々観光客数が増加し、ホテルや各種観光資源の立地が促進され、県内屈指のリゾート地となり、さらなる支援が必要である。⇒観光産業の支援

事業の進捗状況、残事業の内容等

全体事業費での進捗率は約73%、用地買収の進捗率は約100%である（平成23年度末見込み）。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成23年4月29日に暫定2車線で開通し、暫定開通の一定の効果も発揮されている。今後は4車線化に向けて、鋭意事業の進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等

特になし

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は当初から変わらず、事業を継続する必要があるため。

事業概要図

位置図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。